

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな	まえがわ ゆみえ
氏 名	前川 弓枝
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	甲第 30 号
学位授与年月日	令和5年8月31日
学位論文題目	早期産褥期の母親を対象とした「ママにっこり安心子育てプログラム」の効果の検討
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 米澤 洋美 副査 石川県立看護大学 教授 岩佐 和夫 副査 石川県立看護大学 教授 亀田 幸枝 副査 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
審査結果の概要	
<p>本研究は、本邦において早期産褥期（出産後1～6日）にある母親の育児に対する自己効力感向上と育児への自信の獲得を目的として独自に考案された親支援プログラム;ママにっこり安心子育てプログラムの効果を明らかにした研究である。我が国では、育児における親になることへの支援（親支援）が進められているものの、早期産褥期に育児不安が増強しやすい現状がある。日本・海外で検証されている既存の親支援プログラムでは、休息が必要な早期産褥期の母親に対しての実施が困難であることから、早期産褥期の母親に実施可能な親支援プログラムを独自に考案し、介入研究により効果検証を行った。</p> <p>本プログラムは、本プログラムの目的と合致したNobody’s Perfectプログラム（NPプログラム）を基盤にし、早期産褥期の入院中の母親が実施可能なグループ支援プログラムを考案した。プログラム参加希望者を介入群、プログラム参加を希望しない者を対照群として比較試験を行ったプログラム実施前後比較では、子育ての自己効力感に関して、介入効果は認められなかった。さらに、両群の妊娠期と産後の変化をうつ傾向および赤ちゃんへの気持ちに関する質問票を用いて比較したが、プログラムの介入効果は認められなかった。しかし、プログラムのプロセス評価である介入群の自由記載の分析からは、本プログラムの実施時間を「ほどよい」と82.9%が回答し、プログラムの内容への意見からはグループ療法の効果を示す「カタルシス」と「普遍性」が示された。よって、本研究における親支援プログラムは早期産褥期の母親に実施可能とした点において、革新的であり、本研究における分析では対照群との有意差を見出すことはできなかったが、早期産褥期の母親への支援プログラム効果を完全に否定するものではなく長期的効果も含めて更なる検証により科学的に証明されることが期待されるものと考えられた。</p> <p>第1回審査（2023年5月24日実施）では、独自のプログラム考案に至った文献レビューの整理および、基盤としたNPプログラムとの差異、統計解析の追加のほか、研究の意義および限界等について修正が求められた。第2回審査（2023年7月6日実施）では、第1回審査で指摘された部分の修正が適切になされていることが確認されたが、第2回審査会でプレゼンテーションされた内容が論文に反映されていない点や、図の表し方等追加の修正が求められた。その後、再度修正され最終稿が審査委員会に提出された（2023年7月19日）。審査員4名による合議の結果、当該博士論文は看護学において新規性と独自性のある知見を提供し看護実践の発展に資するものとして本学の博士論文の評価基準の要求を満たすものであること、申請者である前川弓枝氏は自立した研究活動を行う能力を身に付けていると判断され、最終試験に合格との判断がなされた。</p>	